



## 総 括

田中 雅道  
(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長

OECD諸国が幼稚園教育を国家戦略として位置付け重要視してきた理由の一つは、移民の増加にありま  
す。母国語を十分に理解できない子  
どもの増加が、国家の不安定化を招  
き、義務教育という国民として最低  
限獲得しなければならぬ能力の獲  
得にも大きな支障をきたしている事  
情が、幼児期から児童期への一貫し  
た教育理念の確立に大きな影響を及  
ぼしています。

幼稚園教育の大切さが見直されて  
いることは重要な視点ですが、一方  
では、幼稚園教育は、小学校教育と  
の連続性を強調されてしまうあま  
り、本来幼稚園教育が目指していた  
ものとは異なる要素にも配慮された  
ものとして議論されている傾向があ  
ります。

本来、幼稚園教育は、遊びを通し  
て自分の周りにあるさまざまな事象  
を体系的に理解していく過程を大切  
にする教育です。

例えば文字を読めるようになる、  
書けるようになることはできるよう  
にならなければならない重要な課題  
ですが、ドリルを使つて、文字を読  
めるようになる、書けるようになる  
といった単純な作業で終わらせるの  
でなく、さまざまな「ごっこ遊び」  
を通して、「自分の思いを言葉で表  
現する」↓「単語を音節に分ける」  
↓「話していることを文字を使って  
表現しようとする」↓「ごっこ遊び  
の中で文字を試してみる」という流  
れの中で、文字を使って表現する体  
系を、自分の力で獲得できるように  
なっています。

一方、小学校教育は、教科書を  
使って、その学年で獲得しなければ  
ならない課題を明確化し、どの能力  
を、どの順序に従つて子どもに獲得  
させるかを、計算された道順に従つ  
て行なう教育です。

本来、質の異なる両者の教育をど  
のように接続させるかが重要な課題  
なのですが、幼稚園教育を小学校以  
降の義務教育の下請け的に理解する  
傾向が日本では強く、幼稚園教育の  
本質がゆがめられてきた傾向があり  
ます。

ここで、注目しなければならぬ  
のは、OECDが行なっているPI  
SA学力テストです。PISAが重  
要視している学力は、知識量を問う  
のではなく、課題解決能力を重視し  
ています。世界では物事の本質を理  
解する過程を大切にしている幼稚園教育  
を、小学校以降の義務教育の基本的  
学力観として定着させることを目指  
して議論されています。

先月号で述べましたが、良質な幼  
稚園教育を受けた群は、普通の幼稚  
園教育を受けた群と、小学校4年時  
点でのテスト結果では有意な差は見  
られませんでした。非認知的な能

力、すなわち意欲、努力、自発性、  
獨創性、協調性といった評価と、大  
人の収入との強い相関関係が見られ  
たことは、私たちの行なっている幼  
稚園教育の重要性を表す指標として  
意識していかねばならないものと  
考えています。

OECD諸国は幼児期の教育効果  
を、成人するまでの長期にわたつて  
追跡調査する縦断研究をすることに  
よつて幼児教育が国家にとつての費  
用でなく、投資の役割が強いことを  
強調して幼稚園教育の充実を図つて  
きました。

日本はこの分野では決定的に後れ  
をとっています。どこかの時点で国  
家的プロジェクトとして幼稚園教育  
の効果を追跡することを望んでいま  
すが、その呼び水として本財団が第  
一步を踏み出さなければならぬと  
考えています。

(つづく)

### ★ホームページをご活用ください

調査広報委員会では、ホームページ  
でも情報をお届けしておりますの  
で、まだご活用いただいていない方  
はぜひご覧くださいませ。